

令和 6 年度事業報告並びに付属明細書の承認について(決議事項)

令和 6 年度 公益財団法人網走監獄保存財団事業報告書

令和 6 年度の総括

昭和 58 年の博物館網走監獄開館から 42 年目となった令和 6 年度、円安による観光需要、特にインバウンドの増加でコロナ以前の入館者数を確保することができました。

2 月 14 日、3 月 17 日と猛吹雪による国道通行止めで臨時休館など開館日数は 362 日、有料入館者数は、248,513 人令和 6 年度入館者目標 23 万人を達成し対前年比 111.6%となりました。収益事業もミュージアムショップ事業・監獄食堂・賃貸料収入・販売委託手数料料合わせ 98,736,537 円で昨年度より125%増となり、公益事業・収益事業両事業収入は令和 6 年度計画を大きく上回ることができました。

しかし、コロナ禍を経て人々の生活スタイルや観光に求めるニーズも変化し、事前情報を SNS で取得し、オリジナルの場所や体験を求め現地に赴く傾向にあります。北海道道東のありきたりの自然景観や食で満足しない一歩踏み込んだ体験を求めてやってくるインバウンドの需要にどう応えていけるかが鍵となってまいりました。

当館もデジタルコンテンツの充実により実際に現地に足を運ばなくても知ることができうる情報が多く、情報過多時代において、実物の持つ魅力や体感バーチャルを凌ぐという気づきを多くの世代に認識してもらい来館を促すことが当面の課題です。

重要文化財建造物保存修理事業が令和6年6月より始まり、文化財建造物保存技術協会との設計監理委託業務の契約を締結し、実施設計、工事入札予定価格書の作成を受け、制限付き一般競争入札を公告。1回目の入札が不落になり、再入札のため文化庁に計画変更届を申請し、許可通知を受け、2回目の再入札を行いました。その結果、大林、亀田 JV による落札となりました。今後は、令和7年5月契約書を交わし工事期間の再検討、補強方法の再提案を検討しながら、安全に事業に取り組んでまいります。事業予算につきましては、重要文化財耐震補強準備積立金として 1 億6千円積み増し致しました。令和 7 年 3 月末積立金は 5 億 3170 万円となりましたが物価高騰による工事価格上昇に伴い、工事総額約22 億円程度の当館負担分を令和 8 年まで積立金積み増しを行います。

今後も少子高齢化が進む国内で入館者の大幅な増加は難しい現状の中、海外インバウンドは円安で好調な伸びが期待できます。引き続き海外誘致に注力し安定的な入館料確保と持続可能な博物館「唯一無二の体験」をコンセプトに役職員一丸となって新たな事業に取り組んでまいります。

以下、令和 6 年度の重要課題別に事業詳細を報告いたします。

1・重要文化財の保存と価値を高める活用を図る

開館から 42 年、網走刑務所から移築復原した建造物 10 棟、再現構築物 15 棟も年月が経過し、木造建造物は修繕作業の連続となり維持管理が難しい状態となっていました。安心安全に見学していただくことを基本理念に、軽微な修繕は自賄で行ってきました。また懸案事項であった耐震補強事業に取り掛かりました。ようやく実施設計、工事業者の決定など、この一年間の進捗状況は若干の遅れはありますが計画通りに進みました。5 年間続く工事期間中の保管措置としての VR 導入多言語化事業 2 期整備も完了、来観者に博物館の文化財を記憶から遠ざけないための文化財の魅力を伝える情報発信に取り組んでまいりました。

(1)重要文化財を雷から守る避雷器の交換作業

平成 11 年の設置から 25 年が経過し更新の時期を迎えましたので、電気保安協会により新避雷器の交換作業を実施しました。

(2)重要文化財の維持にかかる防災体制の確立に取り組み、教誨堂煙感知器の交換、まなびや館消火栓更新、災警報器の点検作業実施、10 月 29 日の重要文化財強化月間に網走消防署、呼人消防団にご協力を頂き、舎房および中央見張所を火災出火場所に想定、放水や避難誘導、消火器を用いての消火活動など総合防災訓練を実施いたしました。職員には防火設備の点検と避難誘導などの日常管理に一層注視し、木造建造物の保存管理に努めております。

(3)建物見守り隊事業は、博物館友の会会員による「建物見守り隊」を結成し北海道文化財活用月間の 10 月に、建造物の清掃並びにイベントを実施しました。網走刑務所二見支所の囚人が食べることが許された「でんぷん豆団子・かぼちゃ団子」の配布と豆わらじ作り体験を行いました。刑務所の加算食のおやつは来館者に大人気でした。友の会会員も見守り隊の使命を認識し、重要文化財は網走市の宝であり守り続けていく責任があると理解し積極的に活動しております。今後も重要文化財デーのイベントを強化してまいります。

(4)耐震補強案工事实施に向け、事業時期、工期、特別積立金などの計画にとりかかり、積立金 1 億 6 千万円を積み立ていたしました。

2 充実した博物館の運営を図る

コロナ禍の5年を経て博物館の在り方も大きな変化がありました。新博物館法の国際化の中の博物館という定義に基づき、網走や地域社会の教育に資するのみだけでなく、増加するインバウンドの方に同様のサービスを提供するという新たな課題が生じた一年でした。従来の人と物を結び、生涯学習活動の拠点、交流の場として機能を求められた博物館は、世界中の誰もが言葉の壁を作ることなく情報や体験を共有できることがあたりまえとなりました。またそのような博物館こそがユニバーサルミュージアムと言われるのです。社会教育機関として情報と感動を提供するという重要な役割を果たす一方で、博物館資料の持つ本物の魅力を全ての人や年代に広く伝えなければ来館に繋がらない難しい課題に直面した一年でした。

昨年に引き続き文化庁の補助金を活用しVRの技術を駆使し体感をリアルにする演出、ホームページ YouTube 上で、詳しい解説が聞けるように多言語解説6ヶ国語の視聴が可能となりました。インバウンドの方々も母国語の解説をスマートフォンで聞きながらの見学風景が多く見られるようになりました。さらに分かり易いピクトグラムを多用し、景観づくり、貸し出しサービスの車椅子、ベビーカー、傘などのハード、ソフト各種サービスをブラッシュアップし多様性に富んだ博物館づくりを継続しております。

博物館の社会教育事業

(1)体験講座

野外博物館の特性を利用し、季節を染めよう「ぶどうを描こう」「麦わらで虫かご作り」ゴムとストローで「テグセグリティ」おもちゃ作り、正月に飾ろう「しめ飾り」作り体験講座を開催、小学生から大人まで幅広い層の参加がありました。博物館本来の本物に触れる感動と市民が集い語らう場としての博物館の教育事業を定員募集型と誰でも参加できる対応型の両方向から進めました。

(2)「看守長屋の年中行事」は網走刑務所看守長屋を会場に日本古来の伝統行事を再現し、博物館を訪れる全ての人を対象に実施。夏の七夕、秋の十五夜、正月絵馬作り、七草粥、鏡開き、節分、雛祭りとして7回の行事を行いました。竹流しそうめんはインバウンドの方に最も好評なイベントで大勢の外国人の方が、流しそうめんを味わい夏の日を楽しんでおられ、その日のXアカウント「いいね」は2万件をこえました。博物館で日本の風習や伝統行事に触れ、薄れかけた伝統や風習を再認識して頂くことを目的に開催しています。行事の様子を当館公式Xでも発信しました。

(3)長期連続講座として網走刑務所の特徴である農業を主体に農園体験ワークショップを5月から11月まで7回にわたり開催し、収穫したカボチャやとうもろこしを使ってカ

ポチャ団子を調理し参加者全員で味わいました。

(4)企画展事業

5月から「北海道遺産フォトコンテスト作品」展を開催しました。

北海道遺産は、北海道が次世代に残したい宝物、各地の産業、自然景観、郷土料理、伝統芸能などの多数のジャンルから構成されています。その遺産を対象にした応募作品の中から選ばれた北海道遺産フォトコンテストグランプリ、準グランプリ作品を展示いたしました。

(5)イベント事業

ゴールデンウィークイベントは、5月3日～4日までイベント広場にて、重要文化財スタンプラリー、明治の子供遊び、竹馬検定、射的、竹トンボ、こいのぼり作り、豆わじ作りの実施、友の会ボランティアによる紙芝居、餅つきと柏餅作りを行い来館者の皆様に柏餅の提供を行いました。9月の収穫祭は網走刑務所三眺神輿を無窮会の会員50名に担いでいただき館内を練り歩きが行われました。

神輿担ぎを実際に見るのは初めてだと一緒に館内について歩く見学者もいました。

さらに地元網走漁港で取れた秋鮭を使った鮭汁の販売は大変好評で、郷土の味をもとめて長い列ができました。活気ある収穫祭となりました。

(6) 博物館網走監獄友の会

博物館友の会は、監獄の歴史や建造物に興味のある方、博物館活動を支えるサポーターとして17年前から会員を募り現在個人会員50名、法人会員10法人が入会されています。5月の桜並木観桜会、7月中央道路二見慰霊碑清掃活動、10月重要文化財建物見守り隊活動、12月の鏡餅作りを実施しました。7月には「日本遺産、炭、鉄、港」をテーマに三笠、小樽、札幌を見学するバス研修旅行を実施し20名の参加がありました。日本遺産である幌内炭鉱の歴史、空知集治監の石炭採掘の歴史、そして石炭を運ぶために敷かれた小樽手宮鉄道の歴史などを学び、会員同士の親睦を深めました。

(7) 解説事業

文化庁の重要文化財活用事業補助金を昨年に引き続き活用し、6カ国語の多言語解説とVRマーターポート360度ウォークスルーを導入しました。この整備により歴史と秘めた空間の単なる来訪者から網走監獄物語の体感者へとより深い体験ができるように整いました。

3 展示建造物の維持管理並びに館内の環境整備を図る

開館から42年、既存の固定資産の老朽化が激しいため、軽微な修理補強、防腐剤塗料の塗布など行い建造物の延命を図りました。耐震補強事業に向けて、工事期間のデメリットを軽減するため、野外ガーデンの整備に昨年同様取り掛かり、夏の水まきのための散水栓設置、魅力的なバラのガーデンの中にバラよりも低い春に咲くスプリングエフメラル(春の妖精)と呼ばれる花の球根を秋に植えこみました。昨今の温暖化による自然災害への危機に備え、建造物回りの支障木の伐採、職員による建造物の劣化度調査の実施、防災訓練、消火設備の点検を行ってまいりました。冬期間の来館者対応に鏡橋前の階段にロードヒーティングを施し利用者の転倒防止を防ぐとともにサービス満足度アップに取り組みました。

(1)館内安全対策

- ① 工房前浸透枥更新 設置から 20 年以上が経過し雨水の逆流現象がおきることから新しい浸透枥を設置しました。
- ② 藤棚の円柱交換を実施しました。館内 2 ケ所ある藤棚の円柱丸太が腐食しているため新たな丸太に交換設置しました。
- ③ 体験講座や講演会で使用するまなびや館の消火栓が設置から 40年が経過したため新しい消火栓を設置しました。
- ④ 冬期間の転倒防止対策と除雪作業緩和のため鏡橋前階段のロードヒーティング工事を実施しました。
- ⑤ 建築から40年を経た再現構築物独居房などの防腐塗料を塗布しました。

(2)館内環境整備事業

- ① 野外博物館の特性を活かし、春、夏、秋のスリーシーズン花を絶やさないために宿根草ガーデン作りを始めて 13 年が経ち、新たなバラガーデンが完成し写真撮影ポイントとして人気を博していますが、バラが咲くまでの 2 ケ月間の間、春の花整備を行いました。引き続きイコロの森ガーデナーと打ち合わせを実施し、春の妖精と呼ばれる美しい花々を秋に植えこみました。

引き続きガーデンキーパーを雇用し、ガーデン整備と敷地内樹木、支障樹木の伐採を行い、来館者を和ませる景観造り、緑地管理、明治の森造りの演出を行いました。

- ② ガーデン用の散水栓を設置しました。

(3)維持管理事業

- ① 館内 9 施設のトイレ掃除を清掃会社に委託しました。
- ② 冬期除雪対策として第 1・2 駐車場除雪を委託し開館時間前に駐車場確保に努めました。
- ③ 傾斜面の草刈り、高所樹木の伐採を造園会社に委託しました。

4 経営の安定を図るため入館者の確保と収益事業の強化

1・入館者の確保

令和 6 年度の博物館網走監獄入館者目標 23 万人に対し、248,513 人と前年比 111.6% と 23 万人の目標を上回ることができました。コロナウイルスが収束し、円安の影響も受け旅行需要が拡大する期待を含めての入館者目標でしたが、予想通りインバウンドの増加が入館者増に繋がりました。

インバウンドがコロナ前同様に回復したことで入館者数を伸ばし目標達成することができました。特に台湾、香港、シンガポールなどの東アジア圏からのお客様が多く来館されました。入館者確保対策は、この数年、映画、バラエティ、旅行番組に関わらず露出の機会が多かったこと、北海道遺産スタンプラリーが実施され、道内 74 件の遺産スタンプを獲得するイベントで道内遺産の中でも当施設はかなりの方が参加されるなど興味度上昇に繋がったこと、公式 X で監獄検定試験を発信し、合格者に博物館内看守人形のネーミングクライツ権をプレゼントするという告知を行ったところ、全国から 7 名の受験がありました。この受験準備のため、平均 3 回事前に博物館の見学と問題集に取り組むなど話題性のある企画となり、リツイートで拡散されました。今後もこのような独自性のある企画を重ねて広報活動に知恵を絞ってまいります。また 3 年前に発生した知床観光船の事故による影響で修学旅行は道東が敬遠されておりますので減少傾向が続く団体旅行誘致に係る旅行代理店への渉外活動についても並行して進めてまいりました。

- ① 入館者数は 248,513 名(前年度比 111.6%)、入館料収入は 342,947,000 円になりました。個人型入館者誘致を目的とする情報発信手段としてインターネット・SNS の活用を推進し、NHK ニュース、情報番組などにも取り上げられました。
- ② テレビ・雑誌等のメディア取材に丁寧に対応し、北海道新聞・読売新聞全道面・共同通信への流通新聞など掲載がありました。ドラマ、PV 撮影等を積極的に受け入れ、また地域団体ひがし北海道 DMO との広域的な宣伝など施設の露出頻度、話題づくりを進めました。
- ③ 来館者接遇事業

解説員による解説をとりやめ、学校団体利用に限り、全体看板前で概要 5 分解説に切り替えて実施しているため、従来よりも回数を多く実施いたしました。しかし全ての展示物の内容を深く知りたいという見学者も多いことから昨年に引き続き多言語解説整備Ⅱ期事業を文化庁の補助金を活用して整備しました。VR ゴーグル、マーターポート 360 度ウォークスルーなどのコンテンツ導入、多言語 6 カ国語の動画解説を制作し誰もが視聴できる整備を行いました。外国人の方のアクセスも多く今後はシルバー層の方にもデジタル解説を覗いていただけるよう、サイト誘導を安易にする検討をいたします。

2・収益事業の強化

SNS の広まりにより、ネットユーザーの話題にのる商品やトレンドワードの時流にのせる商品開発が求められ、インフルエンサーと呼ばれる人が紹介すると売れ行きを左右する傾向にあります。唯一の商品や、当施設だけでしか食べられないものを毎年作り続けていかなければ売り上げ増に結びついていかない状況になってまいりました。しかし、少子高齢化で労働者を確保するのも大変な状況にあり、人件費は増加の一方で収益事業の運営は数年苦戦しましたが、令和6年度はオリジナル新商品の開発による SNS のツイート、アクセスが増加し、話題づくりの効果と北海道のハイグレード商品の取り扱いなど、監獄食堂においては冬期間台湾団体の特別メニューによる受け入れを行い目標の売り上げを確保することができました。

- (1) ミュージアムショップ売り上げ 49,819,518 円前年比 130%
- (2) 監獄食堂売り上げ 40,978,114 円前年比 123%
- (3) 賃貸料収入 7,200,000 円
- (4) 販売委託手数料 738,905 円 前年比 94%

・ 処 務 概 要

1・役員等に関する事項

(1)就任状況等

令和6年度現在役員等

役 職 名	氏 名	当初就任年月日	就 任 年 月 日	担当職務	職 業
理 事	北野 清丸	平成16年5月6日	令和6年5月31日	理事長	財団役員
理 事	今野久代	令和2年11月25日	令和6年5月31日	常務理事	財団役員
理 事	新谷哲也	平成28年5月30日	令和6年5月31日		網走漁業協同組合組合長・会社役員 (漁業・不動産賃貸会社社長)
理 事	角幸博	平成28年5月30日	令和6年5月31日	博物館長	NPO法人役員・北海道大学名誉教授
理 事	大澤慶逸	平成28年5月30日	令和6年5月31日		元網走市副市長
理 事	吉田穂積	令和2年6月22日	令和6年5月31日		大学教授(東京農業大学)
理 事	本間弘哉	令和2年6月22日	令和6年5月31日		会社役員(機械整備会社社長)
理 事	石川康弘	令和2年6月22日	令和6年5月31日		農 業
監 事	松井 丈	平成28年5月30日	令和6年5月31日		会社役員(印刷会社社長)
監 事	中川大	平成22年6月3日	令和6年5月31日		会社役員(機械工具・配管資材卸小売 会社相談役)
評 議 員	藤原孝一	平成16年5月26日	令和6年5月31日		会社役員(測量設計・不動産会社社 長)
評 議 員	東義真	平成16年5月26日	令和6年5月31日		僧侶・幼稚園園長
評 議 員	松下伸次	平成20年6月5日	令和6年5月31日		会社役員(ホテル会長)
評 議 員	小澤友基隆	平成28年6月21日	令和6年5月31日		会社役員(バス会社社長)
評 議 員	新谷光 一	平成28年6月21日	令和6年5月31日		会社役員(燃料会社社長)
評 議 員	土屋善治郎	令和2年6月22日	令和6年5月31日		会社役員(建設会社社長)
評 議 員	白濱敏	令和2年6月22日	令和6年5月31日		団体役員(商工会議所専務理事)
評 議 員	木下研一	令和2年6月22日	令和6年5月31日		会社役員(木材工業社長)
評 議 員	菊地美鈴	令和2年6月22日	令和6年5月31日		元網走市教育委員会社会教育部次長
評 議 員	川瀬敏朗	令和2年6月22日	令和6年5月31日		弁護士法人オホーツク北斗代表